2016年度 修了

若年早期離職者の再就職に至る心理的プロセス
－ 自発的に離職した者を対象として －

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
臨床心理学領域
浦野　幸一郎

本研究は，自発的に離職した若年早期離職者のうち，再就職した者が辿った離職に至るプロセスと離職から再就職に至るプロセスの全体を明らかにすることを目的とした。大学卒業後に就職し5年以内に初職を自発的に離職した者4人を対象に半構造化面接を行った。インタビューにて語られた若年者の就職活動から離職・再就職を経て現在に至るまでの体験過程を，５期に分類した。また，M-GTA の方法を参考にしながら，就職・離職・再就職から現職に至るまでのプロセスに関する概念を抽出した。その結果，＜職場での人間関係の不満＞，＜会社への配慮＞が全対象者に共通してみられた。また，＜1 社目の内定先に決定＞，＜職場で尊敬できるモデルがいない＞，＜他職種・他社との比較＞，＜先入観がもたらす離職への不安＞が 3 名に共通してみられた。これらの結果から，若年早期離職者の就職活動における特徴として就労意識の希薄化や，最終的な進路決定の仕方に問題があることが示唆された。離職を促す要因としてモデルの不在があることが新たに明らかになった。また，職場での良好な人間関係やモデルの存在が，仕事へ意欲を高めたり，環境適応を促進させたりと若年者の職場定着にプラスの影響があることが示唆された。さらに，早期離職を考える若年者は，離職にネガティブな意識(イメージ)を持つことや，会社へ配慮する傾向があることがわかった。